資料２

市民の声について

１．NASUKARA市民ミーティング アンケート報告会における意見

⑴　概要

主催：なすからのまちづくりを考える若手有志の会、株式会社Grow
日時：令和６年６月９日（日）午前10時～午後０時
場所：那須烏山市興野840　株式会社アヤラ産業 AKV（AYALA Kyono Village）
内容：那須烏山市庁舎整備検討委員会の若手委員６名により結成された「なすからのまちづくりを考える若手有志の会」では、若手世代を中心とする市民のリアルな声を見える化し、今後のまちづくりに役立てようとアンケート調査を実施した。
本報告会には、アンケート調査に協力した回答者をはじめ、子育て世代を中心に多くの市民が参加した。
本報告会には、川俣市長も出席し、参加者との意見交換も行われた。
また、子育て世代や高校生にも参加しやすいよう、株式会社Growによるプチマルシェが行われたほか、報告会会場には子どもたちが自由に遊べる遊具スペースを併設するなど、新たな取組も展開された。

⑵　主な意見

【高校生の意見】
◇若者が遊べる場所、集まれる場所がない。
◇ショッピングセンターがあると良い。
◇スタバなど高校生が集まれる場所がほしい。
◇吹奏楽の発表ができるホールがほしい。
◇「ウェルフルなかがわ」のような屋内スポーツ施設がほしい。
◇学校の体育館ではなく、市民がスポーツを楽しめる交流施設がほしい。
◇JR烏山駅前が閑散としている。駅前に若者はもちろん、多世代が気軽に集まれる場所や施設があると良い。
◇猫カフェがほしい。
◇自然を生かしたアスレチック等の施設を作ると良い。

【子育て世代の意見】
◇こども館を利用していて、部屋や遊具が使えないなど、ハード面が残念。
◇こども館の存在自体よく知らなかった。
◇市内に公園が少ない。
◇子どもが利用する施設の整備にしっかり予算をつけてほしい。
◇大田原のトコトコのような室内の遊び場がほしい。
◇市内に大田原のトコトコのような施設があれば、お金を払ってでも利用したい。
◇子どもが休日に市武道館の広場で遊んでいるが、トイレがない。
◇市武道館の植え込みのすぐ外が道路で、段差もあって危険。安心して遊ばせることができない。

【市外在住者の意見】
◇他市町の良い事例で、茨城県境町の境町文化村というゾーンがある。屋根付きの子どもの遊び場やサッカー場、テニスコート、スケボー場のほか、公民館があって様々な活動ができる。本市にも自分のやりたいことができる場所があると良い。
◇自動運転など、課題解決につながるような実証実験を行ってはどうか。

【その他】
◇市外から人を呼ぶことができる場所がない。
◇子どもの遊び場や、親同士が交流できる場所がない。
◇多世代交流ができる居場所づくりが大切。

2．「那須烏山市の地域振興（まちづくり）を考える」意見交換会における意見

⑴　概要

主催：那須烏山市観光協会、那須烏山商工会
日時；令和６年６月20日（木）午後６時30分～８時00分
場所：那須烏山市金井2-5-11　那須烏山商工会本所　２階研修室
テーマ：JR烏山線の存続と中心市街地の活性化に向けて
内容：本市が抱える人口減少・JR烏山線の存続・中心市街地の空洞化・インバウンドへの対応など、多くの問題が山積する中、将来の若者たちの住みやすい環境づくり、お客様に訪れてもらえる観光振興の礎とするため、那須烏山市観光協会及び那須烏山商工会主催により、行政やまちづくり団体を交えた意見交換会が開催され、多くの市民が参加した。

⑵　主な意見

【那須烏山市観光協会長】
◇JR烏山線は観光的に非常に大きな資源。JR烏山線に乗る理由を作っていきたい。
◇宇都宮から益子町や茂木町に直接行くのは不便。JR烏山線を利用してまず那須烏山市に入ってきてもらおうと、県東地域連携に向けた検討を進めている。
◇JR烏山駅前に観光案内所がない。物販もできる観光案内所を設置できると良い。

【那須烏山商工会長】
◇まちづくりに関し、ハードとソフトを連動させることが必要。那須烏山市にはソフト面で活躍できるプレイヤーは多くいるのにハードがない。活躍の場となる公共施設の整備を行政にお願いしたい。
◇JR烏山駅前に市庁舎ができれば、コンビニやレンタカー事業など民間活力を誘導できる可能性がある。
◇JR烏山駅東側の太陽光発電所の場所に市民ホールを整備し、国道294号線沿いに道の駅を整備するのも良い。
◇本市にあって他にないものはJR烏山線であり、強みでもある。例えば、JR烏山駅前は観光、JR大金駅前はスポーツなど、グランドデザインを行政側から示してほしい。

【クロスアクション代表】
◇JR烏山駅前の活性化に向け、どのような施設が必要か、誰に向けた施設とするのかを考える必要がある。
◇JR烏山駅前に市庁舎ができた場合、稼働しない土日にどう活用していくかを考える必要がある。株式会社アヤラ産業AYALA Kyono Villageでは、平日は会社として稼働し、土日は地域のコミュニティスペースとして活用していて、参考になる事例である。

【なすからのまちづくりを考える若手有志の会】
◇人と人とのつながりを大切にして、老若男女がふれ合える機会や場所があることが重要。ハードとソフトが連動する仕掛けが必要だ。
◇「人と出会って交流してつながるまち」がキーワード。本市は市民が活躍する場が圧倒的に不足している。市民が交流し、活躍できる場となるハードの整備が必要だ。

【市】
◇参加者のご意見を総括すると、JR烏山線を存続させる１つの手法として、JR烏山駅前に何らかの公共施設を整備することで賑わいの創出を図ることも大切だと受け止めた。
◇公共施設をどのように再編・再配置すれば利便性の高い市政運営ができるか検討している。10年後、20年後の将来を見据え、市民が夢を見られるようなグランドデザインを作っていかなければならない。

【参加者】
◇JR烏山線を交流の場としてはどうか。
◇JR烏山線やアキュムに魅力や必要性を感じている人がどれくらいいるかが大切。
◇市庁舎はJR烏山駅前に整備するのが良い。車を運転できない高齢者でもJR烏山線を利用して来ることができる。